

2011年3月期 決算概要

2011年5月

稲畑産業株式会社

2011年3月期 決算総括

<ポイント>

- 売上高は、主力の情報電子事業や合成樹脂事業を中心に収益が回復し、
対前期比 14.2%増の4,690億円
- 営業利益は、売上高の増加等により、
対前期比 43.4%増の79億円(過去最高を更新)
- 経常利益は、営業利益の改善に加え、
受取配当金の増加や
持分法による投資損失の減少等により、
対前期比 73.5%増の84億円
- 純利益は、固定資産除却損の計上があったものの、
関係会社株式売却益の計上等により、
対前期比 310.5%増の72億円(過去最高を更新)

連結	2010年 3月期	2011年 3月期	前期比
売上高	4,107億円	4,690億円	14.2%
営業利益	55億円	79億円	43.4%
経常利益	48億円	84億円	73.5%
当期純利益	17億円	72億円	310.5%
1株当り 当期純利益	27円08銭	111円34銭	

2011年3月期 B/S

①手元流動性確保による現金及び預金の増加

②保有する投資有価証券の時価下落

③利益増による株主資本の増加

単位：百万円

(資産の部)	10/03末	11/03末	増減	(負債／純資産の部)	10/03末	11/03末	増減
現金及び預金	5,463	16,559	11,096	支払手形及び買掛金	84,400	86,040	1,639
受取手形及び売掛金	125,638	126,041	403	短期借入金	41,537	45,344	3,806
棚卸資産	24,593	29,578	4,984	その他流動負債	6,165	9,810	3,645
その他流動資産	7,135	5,611	△1,524	長期借入金	17,226	15,184	△2,042
有形固定資産	10,787	9,946	△841	その他固定負債	12,170	9,851	△2,318
無形固定資産	7,880	6,559	△1,320	株主資本	56,841	63,353	6,511
投資有価証券	41,898	38,529	△3,368	その他の包括利益累計額	10,964	7,986	△2,977
その他固定資産	6,567	5,445	△1,122	その他純資産	658	700	42
資産合計	229,964	238,272	8,307	負債純資産合計	229,964	238,272	8,307

2011年3月期 事業セグメント別売上高

情報電子 ⇒ 対前期比 +11.7% 206億円増

- ✓ 液晶関連は、大型パネル用を中心に、偏光板、導光板などが好調に推移
- ✓ 複写機・プリンター関連は、トナー需要の増加及び新規材料の拡販等により順調
- ✓ 電子材料関連は、半導体用封止材や大型マスクブランクスが好調
- ✓ 装置関連は、ハンドラーが大きく回復したものの、大型真空装置の投資減少により大幅減

化学製品 ⇒ 対前期比 +15.9% 92億円増

- ✓ 機能化学製品関連では、自動車部品関連が伸長したものの、樹脂原料は横ばい
- ✓ 塗料・インキ・接着剤関連は、自動車用塗料向けのウレタン原料が大幅に伸長
- ✓ 医農薬関連では、フランスのファインケミカル事業をはじめとして好調に推移
- ✓ 海外事業は総じて好調に推移

合成樹脂 ⇒ 対前期比 +19.2% 269億円増

- ✓ 東南アジアを筆頭に海外事業が大きく伸長
- ✓ 高性能樹脂は、海外での販売も含めたグローバルな取組みが増え、対前期比増加
- ✓ 汎用樹脂の国内販売は、価格が回復傾向にある中、販売量も対前期比増加
- ✓ フィルム、シート関連は、食品、雑貨用途が順調
- ✓ 国内関係会社の業績も好調に推移

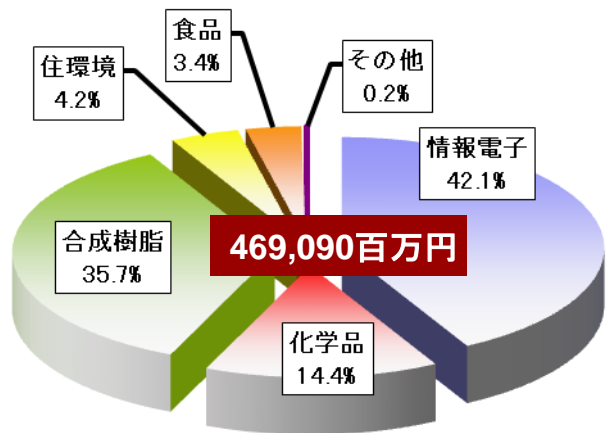
住環境 ⇒ 対前期比 +13.2% 23億円増

- ✓ 戸建住宅が首都圏を中心にやや回復したこと等により全体として伸長
- ✓ 住宅・産業資材関連は、フローア、階段、樹脂建材向けの新規商材が順調に推移
- ✓ 木材・建材関連は、木材関連の輸出入が堅調で、特に三国間貿易が好調

食品 ⇒ 対前期比 △1.2% 1億円減

- ✓ 水産物は、エビ、ウニ等を中心に大手回転ずしチェーンへの販売が順調であった一方、サーモンの価格低迷により全体では微減
- ✓ 農産物は、主力のブルーベリーが2010年の不作の影響により販売減となったものの、国産冷凍野菜において、冷凍品の販売が好調に推移
- ✓ 前期一部残っていた畜産事業がなくなり、その分売上高は減少(約4.3億円)

事業セグメント別売上高



2011年3月期		
	売上高(百万円)	前期比(%)
情報電子	197,436	11.7
化学製品	67,472	15.9
合成樹脂	167,338	19.2
住環境	19,873	13.2
食品	16,048	△1.2
その他	921	△43.3
合計	469,090	14.2

2011年3月期 事業セグメント別営業利益

情報電子 ⇒ 対前期比 +18.3% 4億円増

- ✓ 液晶テレビの市場が国内外で拡大したため、主力の液晶関連材料を中心に伸長したことから増加

化学品 ⇒ 対前期比 +148.7% 9億円増

- ✓ 機能化学品関連、ライフサイエンス関連ともに総じて好調であったことに加え、ファインケミカルを中心とするフランスでも好調に推移したことから増加

合成樹脂 ⇒ 対前期比 +40.9% 9億円増

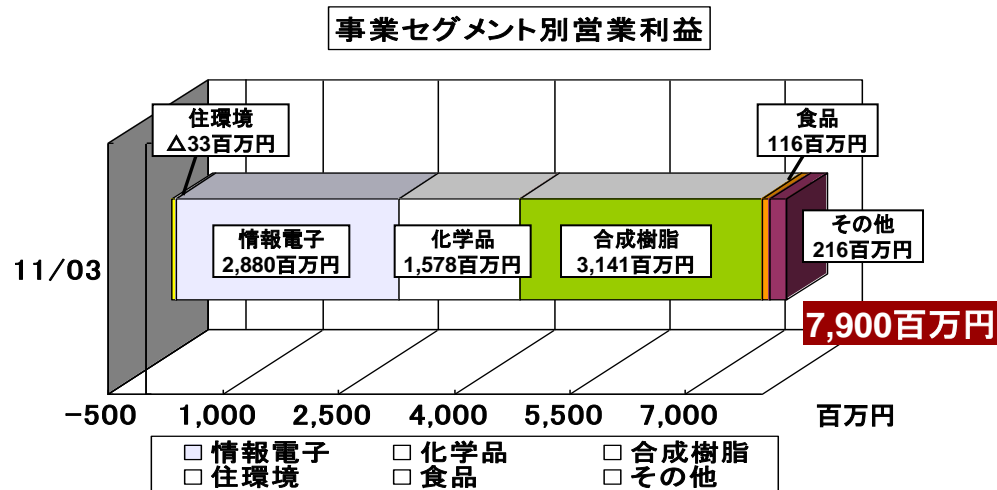
- ✓ 世界不況の影響が残っていた前期と比較し、東南アジアを中心に大幅に回復

住環境 ⇒ 対前期比 5千万円減

- ✓ 一部在庫の処分損の発生や販売管理費が増加したこと等により、営業利益は減少

食品 ⇒ 対前期比 1億円増

- ✓ 売上高は減少したものの、在庫整理が進展し、粗利率が改善されたこと等により、営業利益では対前期比増加



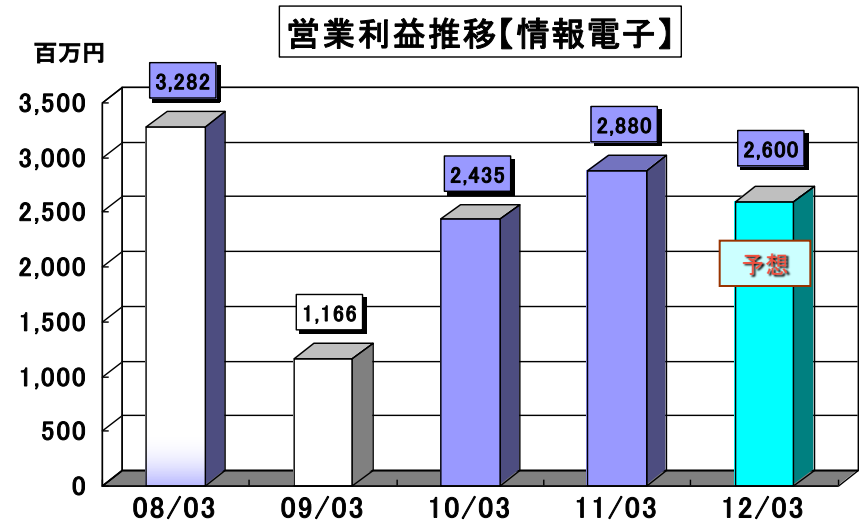
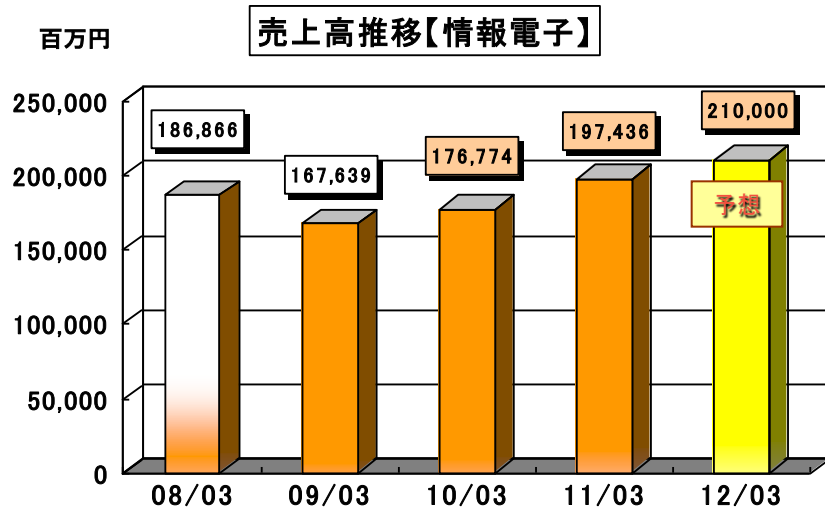
2011年3月期		
	営業利益(百万円)	前期比(%)
情報電子	2,880	18.3
化学品	1,578	148.7
合成樹脂	3,141	40.9
住環境	Δ33	—
食品	116	—
その他	216	Δ11.2
合計	7,900	43.4

※前期 住環境 16 食品 Δ50

2011年3月期 主要事業の個別概況(情報電子)

売上高 対前期比 +11.7% 206億円増加

- 液晶関連は、大型パネル用を中心に、偏光板及びその原材料、導光板、その他輸入商材などが好調に推移
- 複写機・プリンター関連は、欧米の複写機市場の回復等によるトナー需要の増加、新規材料の拡販などにより順調
- インクジェット分野は、コンシューマー向けでは苦戦したものの、産業用プリンターへの注力等により堅調に推移
- 電子材料関連は、ハイブリッド自動車やスマートフォン需要の拡大により、半導体用封止材や大型マスクブランクスが好調に推移
- 装置関連は、ハンドラーが大きく回復したものの、大型真空装置の投資が減少したことにより大幅減少

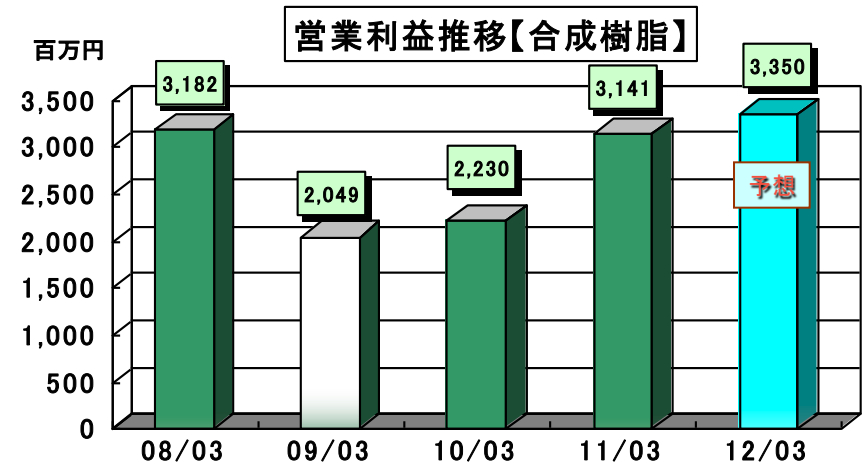
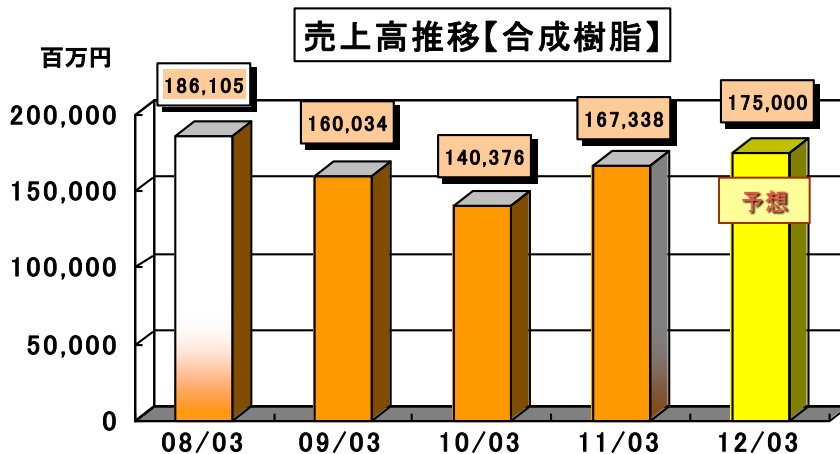


’12年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2011年3月期 主要事業の個別概況(合成樹脂)

売上高 対前期比 +19.2% 269億円増加

- 海外向けを中心に総じて堅調
- 高機能樹脂は、海外での販売も含めたグローバルな取組みが増え、国内販売も増加。輸出は中国、東南アジア向けが好調。
- 汎用樹脂の国内販売は、価格が回復傾向にある中、販売量も前年を上回り増加
- フィルム、シート関連は、食品、雑貨用途が順調であり、輸入品を中心にポリエチレン樹脂の販売も好調に推移
- 国内の関係会社は、原料価格上昇の影響を受ける中、経営の合理化等により、業績は順調に推移



'12年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2011年3月期 地域別概況

東南アジア ⇒ 対前期比 +30.4% 163億円増

- ✓ 家電製品や自動車関連などが順調に伸び、各国とも前期比大幅に伸長
- ✓ シンガポールは、インド、ベトナム向けの輸出が大幅に伸長
- ✓ インドネシアは、商社部門、製造部門ともに好調に推移
- ✓ タイは、自動車、家電などの輸出産業に支えられ大幅に伸長
- ✓ ベトナム、マレーシア、フィリピンは合成樹脂を中心に好調に推移

北東アジア ⇒ 対前期比 +18.8% 139億円増

- ✓ 香港、華南は、家電製品、液晶テレビ関連、自動車関連等が伸長
- ✓ 華東は、液晶関連を中心に情報電子部門の販売が順調
- ✓ 華北では、OA、電子部品向けを中心に合成樹脂が伸長
- ✓ 台湾は、中国における液晶テレビ市場の伸びにより、液晶関連が大きく伸長

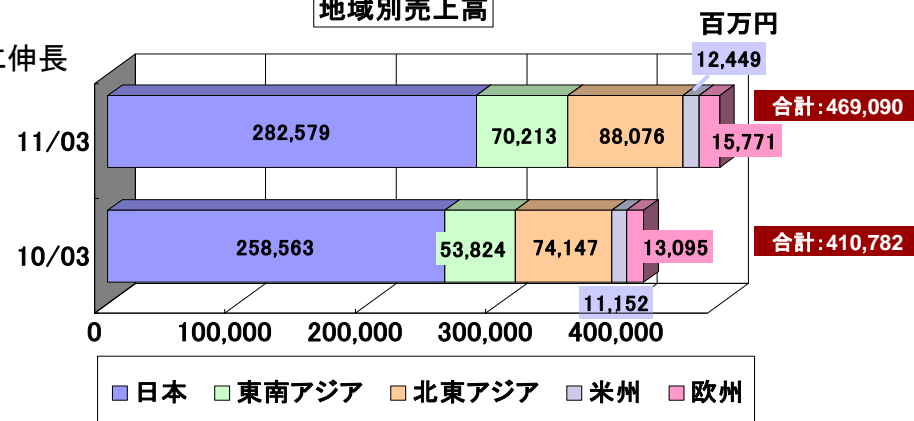
米州 ⇒ 対前期比 +11.6% 12億円増（黒字化）

- ✓ 複写機・プリンター分野においてトナー原料が順調
- ✓ 液晶分野は、光学フィルム等関連材料の売上が堅調
- ✓ 前年実績のなかった太陽電池向け新規材料販売が大幅に伸長
- ✓ 食品関連では、冷凍果実やフレッシュ果実の販売が大きく増加

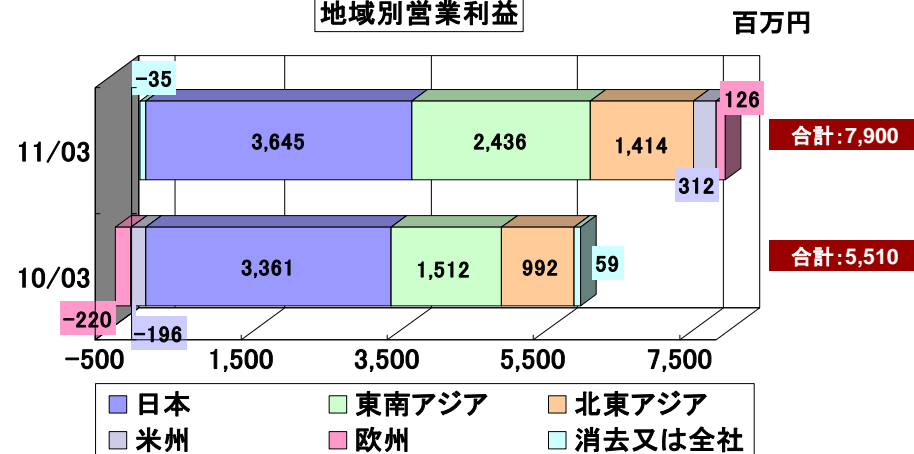
欧州 ⇒ 対前期比 +20.4% 26億円増（黒字化）

- ✓ ドイツを中心に回復基調となり、全体として堅調に推移
- ✓ ポーランドでの液晶パネル材料、半導体材料の販売が順調
- ✓ フランスでは、ファインケミカル商品が、医療・電子材料用途に新規に上市され、伸長

地域別売上高



地域別営業利益



2011年3月期 連結子会社概況

- アイケイファーマシー(株)は、全保有株式を譲渡したことにより、第1四半期期末で連結の範囲から除外
- 丸石化学品(株)は、株式取得(発行済株式の20%)により、第1四半期期首より持分法適用関連会社へ

	連結子会社状況(内訳)		
	国内	海外	合計
連結子会社	12 (△1)	39 (△1)	51 (△2)
持分法適用非連結子会社 及び関連会社	6 (+2)	6 (+1)	12 (+3)
合計	18 (+1)	45	63 (+1)

(参考) ()内数値は、対前期末比増減であります。

2012年3月期 連結業績予想

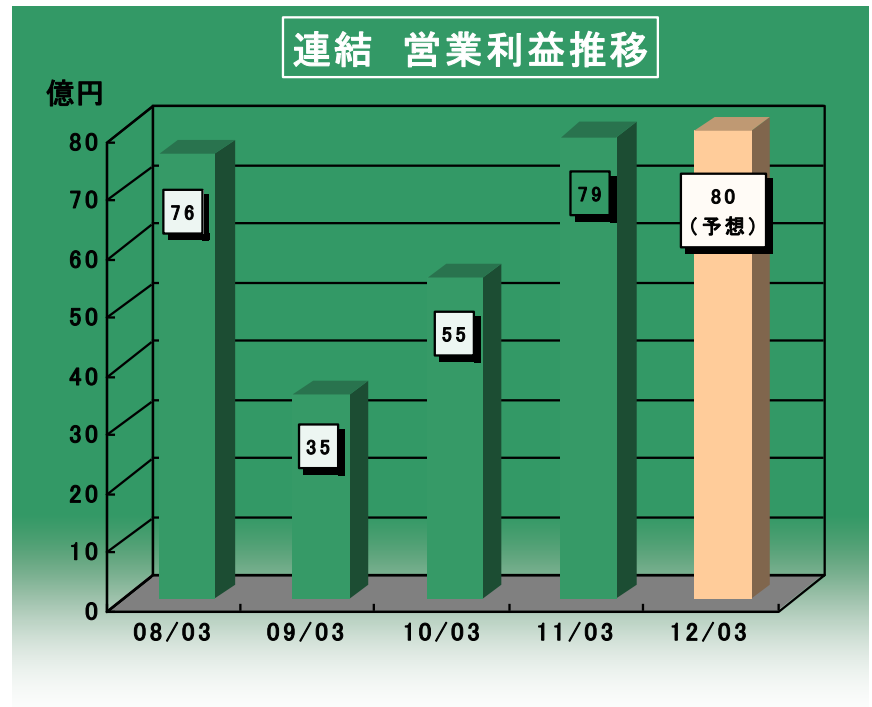
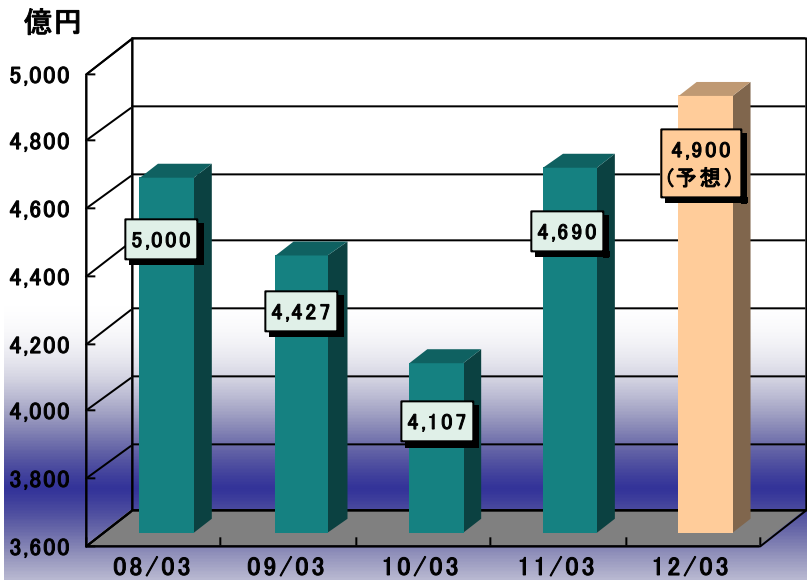
(単位:百万円)

	2012年3月期 (予想)	2011年3月期 (実績)	増 減	増減率
売上高	490,000	469,090	20,910	4.5%
営業利益	8,000	7,900	100	1.3%
経常利益	8,000	8,481	△ 481	△5.7%
当期純利益	4,800	7,232	△ 2,432	△33.6%
1株当たり 当期純利益 (円)	74.00	111.34	△ 37.34	—

'12年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

売上高と営業利益の推移と見通し(08年3月期～12年3月期)

- 引き続き主力の情報電子、合成樹脂を中心に積極的かつグローバルな事業展開を推進



'12年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

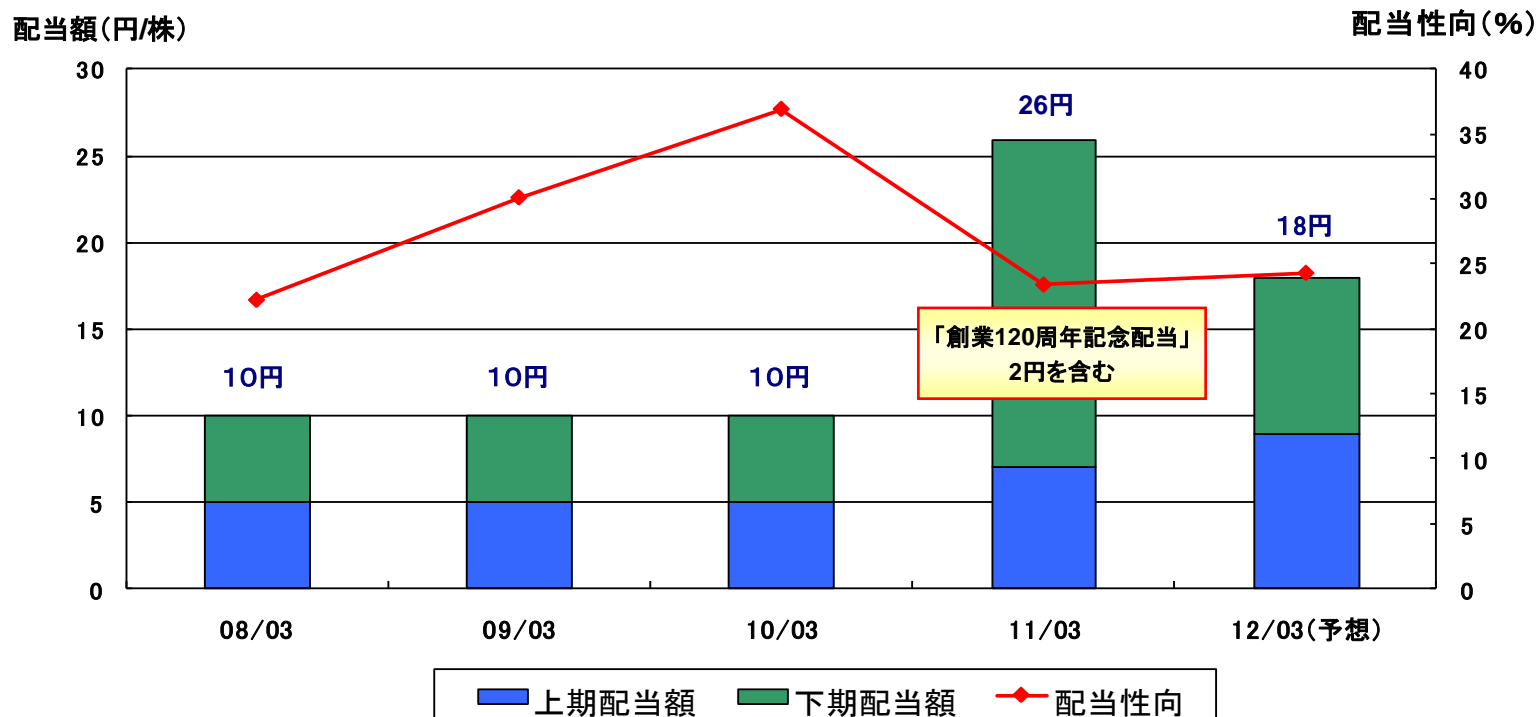
株主への還元

(基本方針)

- 事業収益やキャッシュ・フローの状況などを勘案し、連結純利益の**20%~30%**程度を目安とし、今後の企業価値向上に向けての中長期的な投資などを考慮しつつ総合的な判断で決定。
- 利益水準に関わらず、原則として1株あたり最低限**年間10円**の配当金の維持に努める。

(2012年3月期)

- 次期の配当金につきましては、1株当たり年間配当金18円(中間配当金9円、期末配当金9円)を予定。



今後の方針

中期経営計画「IK2013」の達成に向け、以下の施策を着実に実行することにより、収益基盤を一層強化し、継続的な企業価値の向上に努める

- ▶ 伸びゆくアジア・中国地域へ一層の経営資源を投入し、当社が強みを持つアジア事業を徹底的に強化すること
- ▶ インドに引き続き、南米、トルコなどの新興国市場を新たに開拓していくこと
- ▶ 環境・エネルギー、ライフサイエンス事業の育成・強化を図ること
- ▶ グローバル人材育成のスピードアップを図ること
- ▶ 厳選した投資を実施し、確実なリターンを得ていくこと
- ▶ 更なる資金効率・資産効率を追求し、ROE、ROA、D/Eレシオの向上を図ること